

農協役員室で——ネズミ盗聴記

元農協学園長
秋田 義信



農協の役員室。先客が二、三人居る。油売りとマムシとオンベなどだ。何れも畠から逃げて来ている人達である。

マムシ「此処の入口に、コロナ入るべからずと貼ったのは誰だ！農協の職員でネエベア」

油売り「なんで、そのように人相を悪くして…まるで自分がコロナであるような…」

オンベ「アメリカの大統領が『中国がコロナを輸出した』と言って、中国が怒っているな—」
マムシ「コロナのおかげでマスクを作っている会社が転手子舞だとか」

油売り「『風が吹けば桶屋（おけや）が儲かる』という古言があったからな—」

× × ×

オンベ「彼岸に墓所へ行ったが、

いい墓石が建っているな—」

マムシ「岩木川の下（シモ）の方で、或る家が、デッタラダ墓石を新しく建てたら、本家のものよりも大きいというので、本家がブン怒ったとか」

油売り「津軽では分家のことをエッコと言つが南部ではカマドと言つそつだな。カマドを分けてやった、という意味だとか」

オンベ「墓石のことだが、大正時代に首相をつとめた原敬が遺言で、俺の墓石は一尺五寸でよい。大きくするな、と言つたそつで、盛岡の墓石は本当に小さいそつだ。りんご協会をつくつた渋川伝次郎様の墓石が黒石の寺の所にあるけれども、二尺五寸の小さなものだ」

（追記）三戸郡では本家の承認がないと結婚式を挙げることもできない、という例が今もあるそつだ）

笑顔
千両の人
マムシの目つき
人相さまざま
九五老